

げんでん
ふれあい **福井**

第26号

2006

AUTUMN

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也

玉串料
一金五升円也



●ふくい県民総合文化祭開幕

●継体天皇御即位1500年を迎える
「越前出自の継体天皇(上)」

●ふるさと福井
人物シリーズ「松平春嶽(上)」



オープニングステージ

「第20回国民文化祭・ふくい2005」の開催一周年を記念して、「ふくい県民総合文化祭」メインフェスティバル

「メインフェスティバル」開催

県民総合文化祭は、一昨年まで四回開かれた県民文化祭を、昨年、本県で開催された「第20回国民文化祭・ふくい2005」の成果を一過性のものとならないよう、更に県民文化の蓄積につなげるためのふれあいフェスティバルとして継承していくもので、10月22日から3月25日までの間にふくい子供文化祭など31のフェスティバルが順次開催される企画となっています。大人から子供までが親しめる総合的な文化の祭典として展開されています。

2006

ふくい県民総合文化祭開幕

10月22日福井市の県立音楽堂で開かれました。

ふくい文化の未来に想いを馳せ、日ごろの文化活動の成果を発表するもので、オープニングステージでは、昨年の国民文化祭の閉会式・グラウンドフィナーレを飾った「響の糸」で幕開け。作曲者で東京芸術大学非常勤助手の大曾根浩範さんの指揮で、演奏は、ハーブの風瀬裕美子さん、中井純子さん、マリリンバの平岡愛子さん、パイプオルガンの佐々木美季さんでいずれも本県出身の奏者が横糸・縦糸が織り合わされる旋律で大きな調べを奏で聴衆を魅了しました。

式典では、主催者の西川知事は「一人ひとりが文化を養うということが大切。この文化祭で県民の皆さんが広く参加してもらおう機会にしてほしい」とあいさつされました。



財団シンボルマーク

財団法人げんでんふれあい福井財団は福井県の文化振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに寄与することを目的にしています。本誌はこの主旨に従い県民のみなさんとの絆を大切にしたい広報誌を目指します。

CONTENTS — 26

- 2006 ふくい県民総合文化祭開幕 …… 2
- 第17回福井県高等学校総合文化祭開く …… 3
- 継体天皇御即位1500年を迎える「越前出自の継体天皇(上)」 …… 4
- 継体天皇の謎に迫るシンポジウム開催 …… 5
- ふるさと福井・人物シリーズ「松平春嶽(上)」 …… 6
- 敦賀市中学生 イギリス親善派遣帰国座談会 …… 8
- ふくいの伝統芸能シリーズ「明神ばやし」 …… 10
- 敦賀市立博物館誌上ギャラリー／20 …… 11
- 福井の文学碑「韓国船遭難救護の碑」 …… 12
- 第10回福祉演芸会巡回訪問 …… 13
- 情報ファイル …… 14

FRONT COVER

福井県指定 無形民俗文化財 「日向神楽」 〈坂井市丸岡町長畝区〉



坂井市丸岡町長畝に鎮座する八幡神社の秋季祭礼において9月16日の夜と17日の2日間、拝殿で県指定無形民俗文化財の「日向神楽」が同区保存会により、世の安泰と五穀豊稔を願って厳粛に奉納されました。
日向神楽は、元禄8年(一六九五年)日向の国(宮崎県)延岡の城主から丸岡藩に国替えになった有馬清純公が、神楽の舞手数人を同伴し、神社の祭礼で奉納させたのが始まりとされ、関係者の努力により現在もそのままの姿で保存されています。別称「岩戸神楽」ともいわれており、16日の夜は、天照大神がおかくれになった岩屋の前で、多くの神々が大騒ぎをして大御神を外に連れ出すまでの舞で、17日の昼には、前夜、天照大神が岩屋から出られて、世の中が再び明るくなった喜びとお祝いを表現するもので、神社で優雅に舞われました。(鬼神の舞)



藤岡流思会



アララギ楽苑

第17回福井県高等学校総合文化祭

第17回福井県高等学校総合文化祭(当財団後援)が演劇部門の開催(9月22日~9月24日)を最初に14の部門が平成19年2月23日までの間に行われる。

この文化祭は、芸術・文化の部門別に日頃から練習を重ねてきた成果を披露し、交流を深めるもので、演劇、音楽、吹奏楽、美術、書道、囲碁将棋など多彩に舞台発表や作品展示を繰り広げる。

トップを切って福井市の県民会館で開かれた高校演劇祭では、初参加の足羽高校を含めて17校が参加し、高校生らしい個性あふれる舞台で演技していました。

視覚に訴えるための演出や照明にも工夫を凝らしており、観客は、高校生の熱演ぶりにじゅっくりと見入り感動していました。



熱演する高校生の演劇



パバーズによる「三途の川の爺さん」



「ふくいの文化の未来を語る」トークセッション

続いて「ふくいの文化の未来を語る」トークセッションが行われ、昨年国民文化祭で総合プロデューサーを務めたノンフィクション作家の山根一真氏ら四名が討論。山根氏は福井のもつ文化、歴史のすばらしさと県民の文化に対する取り組みを評価。仁愛大学教授の橋詰武宏氏は、文化の中にも五感を生かした情報発信が大切、素朴で質素な地域文化に参加しそれを発信すれば、地域おこしにつながる。話し、福井大学の西畑敏秀助教は、福井らしさを守ることを県民一人ひとりが再認識してほしいと訴えていました。福井市美山地区の劇団「パバーズ」の林幸典代表は、パバーズのメンバーは、公演を重ねるごとに声が大きくなり、記憶力がよくなったたり病気も治るほど皆んな元気になった。文化は見るだけのものだけでなく、積極的に参加することが大切と話されました。これに先立ち劇団「パバーズ」が寸劇「三途の川の爺さん」を上演、高齢者の身近な話題を福井弁でユーモアたっぷり演技、会場から笑い盛大な拍手が送られていました。

次に、ふくい文化発表ステージが「新・ふくい物語」として県内七団体から百三十一人が出演し、邦楽や合唱、日本舞踊、太鼓などが映像を交えながら一つの物語りとして連続して披露していました。

まず、邦楽ではアララギ楽苑が小学生8人を含む22人で「さくら・21」を響と三味線、尺八で演奏、合唱は福井コールアカデミーが「田舎の歌」を歌い、民間民舞は藤江会が「越前ふな唄」を、日本舞踊では、花柳流友福会が長唄「俄獅子」を、藤間流恵会が長唄「風流船舞」を踊り、洋舞ではバレエスタジオ舞が絲の詩より「組紐」を彩やかな色の布をもって舞われるなど、今年、山口県で開かれる国民文化祭に参加する団体は一段と熱のこもった演技を繰り広げていました。フィナーレには、越前市のハツ杉権現太鼓による華やかで勇壮な祭り太鼓を演奏されました。福井らしい文化祭となり、会場の約八百人の聴衆は、力強い拍手を送り、更なる文化振興の飛躍を願っていました。

平成18年度第17回福井県高等学校総合文化祭

- 第60回福井県高校演劇祭
平成18年9月21日(木)~24日(日) 福井県民会館
- 第7回福井県高等学校かるた大会
9月23日(土) 三国福祉センター
- 福井県高等学校定時制・通信制連合文化祭
10月15日(日) 丸岡高校東校
- 第15回全国高等学校文化連盟将棋新人大会兼大会
10月29日(日) 福井新聞社
- 第8回福井県高文連新聞大会
11月3日(金)~4日(土) 鯖江高校
- 放送部門(第31回全国高等学校総合文化祭参加選考会)
11月9日(木) 国際交流会館
- 第44回高校芸術祭美術・工芸・書道・写真・音・ろう・盲学校作品展
11月9日(木)~12日(日) 福井市美術館・福井県生活学習館
- 吹奏楽・マーチ(音楽フェスティバル)
11月11日(土) 福井県立音楽堂
- 器楽・吟刺・琴芸・音楽(音楽フェスティバル)
11月11日(土) 越前町朝日生涯学習センター
- 合唱(音楽フェスティバル)
11月11日(土)~12日(日) 奥越高原青少年自然の家
- 「高校生文芸道場」福井県大会
11月11日(土) 福井県民会館
- 日本音楽(音楽フェスティバル)
11月15日(水) 福井県立音楽堂
- 第26回福井県秋期囲碁大会
11月23日(木) 福井新聞会館
- 弁論部門(第31回全国高等学校総合文化祭予選会)
平成19年2月23日(木) 若狭高校



ハツ杉権現太鼓



バレエスタジオ舞

継体天皇御即位一五〇〇年を迎える

越前出自の継体天皇(上)

— 天皇の生涯 —

文：青木豊昭

筆者プロフィール



青木 豊昭氏
Toyoaki Aoki

1944年、福井県生まれ。福井大学教育学部卒業。福井県立博物館学芸課長、福井県教育庁歴史文化財調査センター次長、同所長を経て現在、福井県立一粟谷朝倉氏遺跡資料館長。共著『日本城郭大系11』『継体天皇の謎に挑む』『福井県史通史編一原始・古代』『鯖江市史通史編上』『前方後円墳集成中部編』『継体大王と越の国』『福井県不思議事典』他。近著(8/1刊行)『越前若狭地域史の謎に挑む』

来年は越前出自と伝えられる継体天皇が即位されて、一五〇〇年の節目を迎える。そこで、県内各地で、今年から来年に向けて、官民あげてその顕彰の動きがみられる。

継体天皇は本県出身の偉人の中の偉人で、福井県の認知度アップに大きく貢献していた第一等の人物である。

よって、この場をお借りして、本県の進める考古学の事柄として、「継体天皇」について広く理解していただきたく、三回に分けて寄稿したい。

まず、第一回の今回は「日本書紀」※(末尾参照)や「上宮記」の伝える「継体天皇」の生涯を記したい。次回はその検証であり、第三回は今に伝わる継体天皇伝承とその生成についてである。

一 男大迹王(後の継体天皇)の誕生

男大迹王(またの名は彦太尊)は応神天皇の五世の孫で、彦主人王の子である。母は振媛(ひるひめ)といひ、垂仁天皇の七世の孫である。

天皇の父(彦主人王)は振媛がたいへん美人であることを聞きになり、近江国高島郡の三尾の別邸から使を遣わして、



足羽山の継体天皇石像

そこで、大伴金村はまた議つて、「男大迹王はなさせ深く、親孝行で、皇位を継がれるのにふさわしい方である。」といった。物部氏や許勢氏などの有力者もみな、「こ子孫を調べ選んで見ると、賢者は確かに男大迹王だけだ。」といった。さて、豪族たちが節

旗をもつて御美を備え、三国にお迎えに行った。男大迹王は侍臣を整理されて、床几にかけておられ、既に天子の風格がおりなっていたが、すぐに承知されなかつた。友人の河内の馬飼首荒籠が使を差し上げて、諸事情を話し、皇位につかれるよう進めた。それで、やっと承諾された。そして、河内国交野郡の樟葉の宮において、天子のみしるしの鎮剣を受けられ、天皇に即位された(五〇七年、五八歳)。その後、仁賢天皇の皇女・手白香皇女を皇后とされた。その後、八人の妃を召し入れられた。

二 継体天皇の即位

越前国三国の坂井(坂井)より召し入れて妃とされた。そして、天皇(男大迹王)が生まれた(四五〇年)。しかし、王が幼少のとき、父王が亡くなり、母の振媛はなげいて、「私は遠く故郷を離れてしまった。これではよく孝養することができない。私は高向(越前国坂井郡高向郷)に帰り、親の面影を見ながら、天皇をお育てしたい。」といわれ、故郷に帰られた。

五七歳のとき、武烈天皇がおなくなりになられた。もとより子もなく、跡嗣が絶えてしまふところであつた。

そこで、天皇をささえていた豪族の大伴金村が、他の豪族たちに議つて、「今、まったく跡嗣がない。天下の人々はどこに心を寄せたらよいのだろうか。古くから今に至るまで天下の災難はこういふことから生じるのである。そこで、丹波国桑田郡におられる仲哀天皇の五世の孫の倭迹迹王をお迎えして天皇としたらどうか。」といった。豪族たちはそれに従い、お迎えすることになった。ところが、彦彦王は遠くに迎えにやつて来た兵士を見て恐れ、山中に逃げ入り行方をくらました。



継体天皇の出現



高向神社(坂井市丸岡町)

三 継体天皇の治政二十五年

継体天皇の治政は二十五年におよんだが、大きな出来事を要約すると次のとおりである。

(1) 任那四県の割譲

百濟の國の要望に従って、任那の上哆麻呂(トマロ)・下哆麻呂(ゲトマロ)・牟婁(ムロ)の四県を割譲した。その後、己汶(イヒ)・特沙(トクサ)の地も与えた。

(2) 五経博士・段楊爾の受け入れ

易經・書經・詩經・礼記・春秋のいわゆる五經に通じた一流の学者を百濟の國から受け入れた。後に、漢高安茂に交代した。

(3) 四回の遷都

河内樟葉の宮から五年に山城の筒城の宮に、十二年に山城の弟國の宮に、二十年に大和の餘余の玉穂の宮に遷した。

(4) 磐井の反乱

二十一年、近江の毛野臣が、兵六万を率いて任那に行き、新羅に破られた土地を回復して任那に合わせようとしていたとき、筑紫国造の磐井が新羅と組み、北部九州勢を傘下に入れて反乱した。物部麁鹿比を大將軍として戦い、磐井を殺し、乱を鎮圧した。

(5) 継体天皇崩御

二十五年春、天皇は病が重くなり、玉穂宮で崩御され、時に八十二歳(五三二年)であった。冬十二月五日、藍野陵(摂津国三島郡藍野)に葬った。

四 継体天皇没後、子孫が継承

継体天皇没後、子の安閑天皇・宣化天皇が順に即位され、その後、手白香皇后の生まれた欽明天皇が即位された。

それから、孫の敏達・用明・崇峻・推古の各天皇が即位され、古代国家形成の上で、大きな役割を果たされた。推古天皇の撰政となり、十七条の憲法

を定められた聖德太子は継体天皇の曾孫であった。
※「日本書紀」の現代語訳に当たっては、中井和久氏の講義を参考に文庫本を参照した。
 (次号につづく)
 (青木豊昭)



真の継体天皇陵・今城塚古墳(高槻市)

越の国ルネッサンス2006 継体天皇の謎に迫るシンポジウム開催

継体天皇が即位されて来年で1500年を迎えることから8月6日、鯖江市の歴史会館で西川知事や継体天皇ゆかりの福井、坂井、越前、鯖江市長はじめ県内外の歴史愛好家らを迎え、越の国ルネッサンス実行委員会設立式「および」継体天皇即位1500年記念前年祭講演会(当財団協賛)が開催されました。

設立式では、「越の国ルネッサンス実行委員会」の福田住世会長がこれまでそれぞれ

の地域で活動を行ってきた17団体が一体化して今後取り組む経過や明年の本番に向けての決意を込めて挨拶されました。

講演会では、京都教育大学の和田草教授が「継体天皇即位の歴史的背景」と題して、日本書紀などの記述をもとに三國、坂中井など越前地域とのかかわりや越前を出て、枚方市にある樟葉宮で即位するまでの経緯を説明した。

基調報告会では4名の報告者から大王

の功績などを最新の研究成果が発表されました。樟葉宮の枚方市、大王の生誕地の滋賀県高島市をはじめ県内外のゆかりの地の方々や歴史ファンの方々など約650人が最後まで熱心に聞き入り、明年の記念事業に強い関心と期待を寄せていました。

また、同日夜には、越前市栗田部町の花露公園において、「花露新能」が催され、かがり火が焚かれ荘厳な中で継体大王の恋物語りの「花露」などが演じられ約800人の観客は、新能の幽玄の世界にひたっていました。



ふるさと福井人物シリーズ

松平春嶽

(上)

リーダーの的確性・平和変革路線

文／三上一夫

「ふるさと福井」人物シリーズ「第四弾」として、全国的にもたぐいまれな雄藩大名、松平春嶽公を取り上げました。

幕末維新期の福井藩を中心とした歴史研究家三上一夫さんに、「松平春嶽リーダーの的確性・平和変革路線」と題して、本誌(上)・(中)・(下)に分けて執筆をお願いしました。

(財団編集係)

再評価される春嶽

日本が近代社会への転換をめざした幕末維新期と現代社会を比べた場合、さまざまな類似点が見出される。その点一口で言えば、「内憂外患」の厳しい

社会情勢に見舞われたわけである。

この大変革期にあつて、私たちの大先達が新時代を切り開く先頭に立ち、どのような考え方で、懸命な活動をしたかに思いを馳せた場合、身近な地域でもある幕末の福井藩で、第十六代藩主、松平慶永(春嶽)と、彼を取り巻く改革

派家臣団の真剣な働きに注目したい。

まず春嶽は、開塞的な情勢を打破するリーダーとしての重要な役割を果たすことになる。

リーダーの特質には、学問的開明性、人材を見抜く活眼、衆議をま

とめる演出力、勇猛果敢な決断力、将来への洞察力などが挙げられるが、春嶽はまさしくこれらの要件を見事に発揮できたものと考えられる。

彼はまず抜本的な藩政改革により、名実とも「雄藩」に推転させ、ついで中央政局の幕政改革にもかかわらず、さらに幕末の大詰め段階では、福井藩論の「公議輿論」尊重の「公議論」路線により、平和変革を目指しての議會制近代国家を構築しようとしたのである。

そこで春嶽の起伏にみちた人生コースのなかで、彼のリーダーとしての要件がどのように発揮されたかについて具体的に述べることにする。

学問好きの生い立ち

「錦之丞は学問好きで、親ながら感心する。ほかの兄弟が遊んでいるときでも、読書したり、習字をしたりしている」と、江戸城内の自邸を訪れる友人にときどき語るのは、田安斉匡であった。錦之丞とは斉匡の八男で、春嶽の幼名である。

元服後は將軍家慶の一字を賜つて慶永と改めたが、彼自身が最も好んだのは春嶽の号であった。

彼の生まれた田安家は、徳川將軍の親族である御三卿(田安・一橋・清水)のうち的一家。こうした徳川一族のなかで育った錦之丞は幼い時分から読書好きで、また筆まめであった。この学問好きの習慣は、一生続いたわけだ。現在福井市立郷土歴史博物館が収める春嶽自筆の日記・筆録・著作の類はおびただしい数にのぼる。おそらく幕末の諸大名の中で、彼ほど多くの記録を残した者はないだろう。

もともと福井藩での儒学の主流は、山崎闇斎の崎門学派だった。春嶽の少年時代の勉学の中心も崎門学派であつ



松平春嶽肖像(福井市立郷土歴史博物館蔵)



春嶽筆による書(右は11歳、左は12歳)(福井市立郷土歴史博物館蔵)

筆者プロフィール



三上 一夫氏
Kazuo Mikami

1921年朝鮮京城府生まれ。京城帝国大学史学科卒業。福井県立大野高等学校校長・福井県教育研究所長などを経て、現在福井工業大学名誉教授。1989年に福井県文化賞、2004年に福井新聞文化賞を受賞。主要著書に「公武合体論の研究—越前藩幕末維新史分析」、 「横井小楠の新政治社会像」、最近では「幕末維新と松平春嶽」など多数。

だが、次第に孔孟の儒学の源流にさかのぼって、儒学の根本精神を学び取るうとした。一方、附近の中根雪江からは、中根の師、平田篤胤の国学の薫陶を強く受けた。

このように、儒学や国学によって、日本人としての主体性を見出し、その自覚のもとに、後述する西歐の学術の吸収に努めることになる。

門閥・身分に

こだわらず

春嶽は、十九世紀後半の嘉永期から安政期にかけての抜本的な藩政改革のなかで、門閥や身分などにまったくこだわらない人材登用を行った。

わずか二十五五人扶持の橋本左内を抜きて、藩校の明道館教育の刷新や安政期の幕政改革運動に奔走させた。また、高石の三岡石五郎(由利公正)の実践力に着目し、異色ある富国強兵策による藩政の立て直しに、大いに実効をあげさせた。

また有能な人物ともなれば、遠く藩



横井小楠肖像(福井市立郷土歴史博物館蔵)

外からも求めるという熱の入れようであった。安政五年(一八五八年)には、はるか九州の熊本藩から横井小楠を福井藩の政治顧問として招いている。

熊本での小楠は、藩首脳部から白眼視され、なから職務が与えられなかったが、福井藩に招かれた初め、彼のたくいまいな経世論を堂々と実践

できる場が与えられたわけである。

春嶽の人を見抜く活眼は、土佐藩の坂本龍馬との出会いのなかでも見事に発揮される。春嶽の手記「逸事史補」に、春嶽の紹介で幕臣、勝海舟に面会した龍馬の話として、「あくまで議論して勝を屈服させ、その上で勝が謝ればよし。さもなければ、一刀に刺殺しようと思いつく。勝への面会を乞うた」とある。しかし、これは後に海舟から聞いたものを記録したとみられ、直接龍馬からの話によったとは考えられない。

要は、春嶽の透徹した活眼は、龍馬が海舟に会いたいという、真の願望を容易に見抜いていた。もし龍馬の胸に秘められた殺意を少しでも察知すれば、彼に紹介状を渡すようなことは決してしなかったであろう。

もともと春嶽としては、海舟が龍馬を説得するだけの力量の持ち主であることをよく承知していた。また龍馬は使いようによつては、取り扱いにてこずる攘夷派対策に打って付けの人物だと見て取ったに相違ない。



坂本龍馬肖像(高知県立歴史民俗資料館蔵)

春嶽が座右の銘とした「我に才略無く、我に奇無し。常に衆言を聴きて宜しき所に従う」も、彼が家臣団の人材を見抜く活眼に因ったことはいままでもない。

議会制提言の

先見性

春嶽が幕閣の政事総裁職の要職にあつた文久二年(一八六二年)ごろ、彼が記した「虎豹変革備考」に、極めて先見的な二院制の議会構想が述べられている。つまり「天下公共の論」を議するため、英国議会の二院制(上院ハルリモン、下院コンモンズ)に見習って、上院は幕臣・諸侯の中から、下院は諸藩士の人材を充てるか、または上院は諸藩の藩士から任命し、下院は「農民・町民または庶民」を加えるのも一法である、と記している。そして、議会を国政の最高機関に位置づけるなど、彼の開明的な議会構想をみてとることができよう。

記載の中で、春嶽は、「西洋

諸州の史をみるに……と述べるが、これはまぎれもなく、春嶽自身が海外からの文献「大英國志」(キブソン撰・幕維廉訳、一八五八年、上海墨海書院刊)から学んだことが分かる。本書の表紙に「加朱春岳慶永」を朱記し、文中の字句には彼の朱筆がおびただしく付記されているからである。

春嶽のように、時期的に早く、しかも下院を庶民層で構成するという議会発想は、少なくとも幕末を通じてほかになく、その比類ない先見性には驚かされる。彼が文久二年に、いち早く大政奉還論を唱え、いったん政権を返上したうえで、諸侯会議によって、新しい政治体制を組み立てるよう提案したのも、春嶽自身が海外文献などによって、西歐諸国の先進的な議会政治を学びとったからにはかならない。

幕末大詰めの慶應三年(一八六七年)の段階で、坂本龍馬が著した「船中八策」に見られる大政奉還論は、いかにも彼の独創によるかのようにいわれる向きが目立つ。しかし、これは明らかに龍馬が前もって春嶽の議会論や政權奉還論を学びとったことによるもので、春嶽の奉還論を土佐藩から幕府に建白させる手がかりをつくったものとみるべきであろう。

(次号につづく)

耶蘇降世二千八百五十六年 朱春岳慶永

大英國志

江蘇松江上海墨海書院刊

大英國志 (東京都練馬区北野・吉田氏蔵)



Japan&England

敦賀市中学生



イギリス親善派遣

帰国座談会



ウォーリック城前で

当財団と日本原電(株)の共催で、敦賀市内在住の中学生5名が東海村(茨城県)の中学生5名と合同で7月28日から8月6日までの10日間イギリスを親善訪問しました。

この親善派遣事業は、国際的視野に立つ若い人材の育成と友好親善を深めることを目的に相互に交流しているものです。今回も、日本原電の海外協力会社のBNGS社の協力を得て、3年ぶりに派遣しました。

中学生は、ホームステイやイギリスの中学生との交遊を通じて絆を深め、楽しい思い出を持って元気に帰国しました。

派遣事業に参加した中学生と、同行いただいた先生に、帰国後、イギリスでの体験などを語る座談会を開きました。

Q はじめてのイギリスへ行かれて、まず第一印象はどうでしたか。

沖元 日本の夏と比べて寒く感じた。井美 車窓から見た景色は、自然に恵まれ、緑が多く広々としてきれいでした。

坂井 畑ではなく広い丘陵地の中に道路が自然の地形に合わせて造られていて丘をいくつも越えていく感じで日本とは違っていた。

佐藤 気候も、見る景色もまったく違い目をうばわれました。

平松 夏なのに日中もすずしいし、広い土地で緑が多い。

五島 風景は北海道のようですばらしい。湖水地方、カンブリア地方は、自然の美しさと伝統的なイギリスの街並に感動しました。

Q イギリスで4日間ホームステイされましたが、英会話やホストファミリーとの生活は、どうでしたか。

平松 英語の聞きとりがむずかしく、書いてもらって理解できた。ホストファミリーとの生活は、やさしい人達で楽しかった。

井美 英単語のつなぎ合わせで話した。わからないところは、英和辞書で調べてくれた。朝食は、コーンフレーク、牛乳、パンでした。ホストファミリーはとても優しい。

佐藤 会話は余りできなかったが、セスチャーをまじえてコミュニケーションをとり生活ができて、かけがえない経験ができました。

坂井 ホストファミリーの人達が分かりやすく話してくれたので、理解できました。積極的に話しかけていけないと思いませんでした。



坂井さん

Q セラフィールド地区では、生徒間同士の交流などが行われたそうですが、その時の感想は。

沖元 交流会では、全員が何らかの役割を果たしていたし、日本の文化の少しをイギリスの生徒に知ってもらえることができて良かったです。

坂井 みんな気軽に話しかけてくれて、互いに打ちとけ、仲よくなって楽しい交流会でした。

佐藤 自分のホームステイの中学生はもうろん他の子とも仲良く話すごうできてとても良い交流会でした。

井美 言葉は通じないこともありましたが交流しているうちに互いになんとかなく意図が通じることができると感じました。



沖元さん

沖元 英会話は、早く通じない部分もありましたが、簡単な単語で話してくれたので、ある程度は理解できたと思っています。一日目の夕食に出されたラム肉がとてもおいしかったです。



交流会にて折り紙で遊ば

＊イギリス訪問日程＊

7/28(金)	13:47敦賀発、成田空港へ。成田にて東海村中学生と合流し空港内待合室で結団式。夜、エールフランス277便にて成田発。(13時間20分) 【機内泊】
7/29(土)	早朝パリ着、乗り換えマンチェスターへ。マンチェスター到着後、専用バスでセラフィールドへ移動。BNGSビジターセンターにてホストファミリーとの対面。ウェルカムパーティー。【ホームステイ】
7/30(日)	ホストファミリーと過ごす週末。【ホームステイ】
7/31(月)	BNGSビジターセンターにて生徒交流会。コーブランド市長監修のもと、派遣団プレゼンテーション実施。後、マンカスター城見学&昼食。午後はミニ蒸気機関車でデールガース往復後、ラム湖歴史館見学&夕食。【ホームステイ】
8/1(火)	湖水地方(ウィングミア)見学へ。ピアトリクス・ボッター博物館見学とショッピング。夕方からクレーク・ムーア文化会館でフェアウェルパーティー。【セラフィールド泊】
8/2(水)	セラフィールドから専用バスでチェスターへ。チェスター市内見学(チェスター大聖堂、城壁、ザ・ロウズ見学)&昼食。午後ウォリック城見学。後、ストラトフォード・アポン・エイボンへ移動。ホテルチェックイン後、市内で夕食。【ストラトフォード・アポン・エイボン泊】
8/3(木)	ストラトフォード・アポン・エイボン市内見学(シェイクスピアの生家、アンハサウェイの家)&昼食。後、コッツウォルズ地方へ移動。コッツウォルズ見学(ポートン・オンザ・ウォーター、パイプリー)後、オックスフォードへ移動。ホテル内で夕食。【オックスフォード泊】
8/4(金)	オックスフォード市内見学(クライストチャーチ、マートンカレッジ等)&昼食後、ウッドストックへ移動。ブレナム宮殿見学。後、パーミンガムへ移動。ホテルチェックイン後、市内で夕食。【パーミンガム泊】
8/5(土)	早朝、専用バスでパーミンガム空港へ移動。パリ乗り換え、エールフランス276便にて空路、帰国の途へ。(11時間40分) 【機内泊】
8/6(日)	午前、成田空港着。通関手続き。解団式後、敦賀へ。14:29敦賀着。

参加生徒

- 井美 遥さん (松陵中3年)
- 佐藤 瞳さん (栗野中2年)
- 沖元 滉さん (栗野中3年)
- 平松 悠利子さん (角鹿中3年)
- 坂井 友哉さん (気比高付中3年)

同行の先生

- 五島 伸一先生 (栗野中)



コーブランド市長へ花束贈呈

平松 東海村の中学生と一緒にになって日本の文化の一部を伝えることができました。東海村の中学生は元気にやっています。

五島 折り紙、書道、武道などを披露しましたがもっと準備していけば良かったと思っています。

Q 日英通訳派遣というところで、コーブランド市長さんと会われたようですが、その時の様子はどうでしたか。

沖元 市長さんとは、緊張してしまい、うまく話すことができませんでした。

坂井 敦賀市のことを英語で説明しましたが緊張のあまりうまくできなかった部分もありました。市長さんは日本の文化にとっても興味を持っていたようでした。

佐藤 市長さんに会う前は、どんな方だろうと考えていましたが、会ったらすごく優しい人でした。市長さんと英語で話せたらと思います。

井美 とても優しい市長さんでした。

平松 市長さんは、私達に笑顔で話しかけてくれました。

五島 女性の市長さんで、今回の友好視察訪問を大変歓迎していたと感じています。



井美さん

Q チェスター、オックスフォードを訪れイギリスの自然、歴史遺産、文化などにふれた市内見学で、特に印象に残ったことを話してください。

沖元 オックスフォード大学は、石づくりでも古い建物で歴史の建物物であると感じました。セラフィールドは、羊が多く、馬、牛が多くいて美しいのかな風景でした。

坂井 コッツウォルズ地方の街並がきれいでした。昔からの家が多く内装だけを変えて住んでいる。ウォリック城の上からみた景色は、すばらしく感動しました。

佐藤 クライストチャーチは、とても興味深かったです。



佐藤さん

井美 湖の景色がすばらしくきれいで印象に残っています。お城が日本の城と雰囲気が似ていると思いました。

平松 落ちついていて景色がとても美しい。

五島 伝統を守っているすばらしさを強く感じました。



平松さん

Q 今回のイギリス訪問の体験を今後どう活かしていきたいと思っていますか。

平松 英語の会話がおまわりできなかったのですが、今後英語の勉強を頑張っていきたいと思っています。

井美 国際人として社会に出ていくために活かしたいと思う。英語の力不足を感じたのでもっと勉強していきたいと思っています。

佐藤 コミュニケーションの大切さや言葉の違う国の子と友達になれた体験を活かして、これからいろいろな事に積極的に取り組んでいきたいです。

坂井 イギリスで学んできたことを日々の生活や将来の仕事などにつなげていきたい。今回の体験を活かして他の国へも行ってみたいと思っています。

沖元 英語をしっかりと勉強してまた行きたいと思っています。

五島 素晴らしい経験をさせていただきました。少し世間が広くなった分、前向きに積極的に生きたいと思っています。

イギリスでは、多くの人達に大変お世話になりました。感謝しています。ありがとうございました。



五島先生

福井県指定無形民俗文化財
明神ばやし

越前町



短く太いバチで「ドドンガドン、ドドンガドン…」

福井県無形民俗文化財に指定されている「明神ばやし」が10月9日(体育の日)の午後、越前町織田に鎮座する越前二の宮と言われている明神社の秋季例大祭に同社境内広場で明神ばやし保存会によって奉納されました。境内には多数の参拝客や地元の方々が集まり勇壮にして豪快な太鼓の音と独特の打つ演技に大きな拍手を送り、伝統芸能の深さを楽しんでいました。

境内参道の中央に地太鼓が位置し、これを挟んで平太鼓が左右に二つ対称に並べられている。「出て来いやー」と地太鼓の打ち手のかけ声と共に法被に鉢巻、股引き、禪がけ姿の小学生三、四年生12人が走り出て左右一列に並んで打ちだす。

短く太い独特なバチで「ドドンガドン、ドドンガドン、ドドンガドン、ドドンガドン…」先頭の童が太鼓を打ち、他の子供は同じ動作をくりかえし、つぎつぎと交替してバチよく打つ。笛二人の吹く音との調和がとてもよく可愛い。

次に、太鼓四つを加えて、股引きに法被、鉢巻姿の青年男女10人により、勇ましく、力強く打つ。秋晴の神社境内全体に笛のメロディに合せて鼓音が響く。打つときの色々なしぐさが見えていて実に楽しい。

御神社には、昔より「お渡り」と称する神事があり、豊年の年に限りこれを祝って盛大に行われてきた神事です。長い行列をつくって境内を練り歩くもので、後続部隊の道をひらくため、他に類例のない独特のバチを巧みに削いで打ち出す青年の勇壮な曲太鼓と「台する」と言われている舞台に乗る稚児の可憐な太鼓と「茶利」と称する道化節のおどけのバチ踊きの三者の饗宴で、行列の庄厳給帯を繰り広げていました。

この行事は、いつの時代からあったかは明らかでないが、寛文三



法被に鉢巻で整然と力強く打つ小学生による太鼓

年(一六六三年)に織田の庄屋又兵衛他五十三年の氏子総代達が、長く途絶えていた「お渡り」の復興を願い出した記録が御神社に残されています。

その後、昭和初期まで行われていた「お渡り」は、再び行われなくなっていました。その後御神社の例大祭で愛好者達によって打ち囃らされてきた「台する」が昭和二十六年に「明神ばやし保存会」を結成し、引き継がれました。

明神ばやしの精神は、「天徳を仰いで我が身に体し、大地に立脚して鞭を握え、人を敬愛して体心をつくす」としており、型は(1)天つき(2)肩つき(3)腹とり(4)耳かき(5)袴さばき(6)袴かけの六つの型で一つの型のくり返しが六回あり天地八合に働く者の豊作に対する感謝の意を表すものです。六つの型はいずれも農作業の動きと思われる。現在の「明神ばやし」は、地太鼓一、笛三、太鼓打ち八、茶利一、子供の太鼓打ち十二の合計二十五名で構成している。

衣装は、大人は、紺の股引、法被に角帯をしめて白足袋草履はきに向う鉢巻でバチは短くて特殊なもの、子供は、大人と同じで禪がけ、バチは紅白布を裏面に巻いたもの、茶利は、老

翁の姿で面をつけ、腰に大きな煙草入れをさげて歌を持ちます。

打ち続ける地太鼓のリズムと笛の音調に合わせて、大人は勇壮豪快に、子供は整然華麗に、茶利は、おどけの真髄を究極し、素朴剛健を旨とし、すべてに対して感謝の意を表わしている。

昭和四十六年四月に福井県無形民俗文化財の指定を受け今日に至っています。保存会によって受け継がれてきた明神ばやしは、織田まつりの「台する」限演をはじめ広く住民のものとなっており、また町おこしの原動力となっています。

交通案内



越前町織田に鎮座の越前二の宮御神社



おおいがわぎょゆうず
大堰川御遊図 一幅
原在泉 筆

□絹本彩色 □縦173.5cm×横86.0cm
□近代(明治) □落款 在泉
□印章 「原在泉印」白文方印

京都の名勝・嵐山を流れる大堰川に、装いをこらした三艘の舟が浮かべられ、そこに公家たちが乗船して詩歌や管弦を奏しむ様子が描かれています。

一見すると大堰川の垂折神社で行われる「三船祭」を連想しますが、水辺で迎えるの舟を呼び寄せる面衣姿の公卿には、なんとなく怪しい雰囲気が窺われます。したがって、これは単なる祭礼図ではなく、古典に取材した絵画と見るべきでしょう。

『古今著聞集』(鎌倉時代の世俗説話集)巻四には、白河院が大堰川に行幸し

た際に、詩・和歌・管弦の三艘の舟を仕立てて、各舟にそれぞれ堪能な人を分乗させて楽しむ舟遊びを催された故事があります。この時、源経信という、漢詩や音楽にも秀でた歌人が遅参したの

で白河院は機嫌を損ねておられました。が、しばらくして参じた経信が、「やあやあ、どの舟にても過ぎよせてください」と急いで舟を呼び寄せ管弦の舟に乗り込みその上で漢詩と和歌までも誦じたという多彩ぶりを示す逸話があります。おそらくこれを絵画化したものと思われる。

本図は、明治15年(1882)第1回内国絵画共進会に出品し銅印を受賞、宮内省買上、明治天皇の御遺物でありました。原派の筆墨にして細密な画風をもつ作品といえるでしょう。

筆者の原在泉は、若狭小浜藩主酒井家と姻戚関係のある京都の画家・原家の4代目に当たります。嘉永2年(1819)に出生し、京都府曲学校の教員となり、各展示会に出品し、受賞を重ね、またその審査員を務めました。大正5年(1916)66歳没。

福井の文学碑

韓国船遭難救護の碑

海は人をつなぐ母の如し

漁村に残る歴史的・文化的に価値の高い史跡や施設として、2006年2月に水産庁から「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」に「福井県から唯一選ばれた『韓国船遭難救護の碑』」が小浜市泊の海岸に面した公園の中央に建てられています。

今回は、文学碑に準じて紹介します。



韓国船遭難救護の碑

未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選

泊の記念碑

小浜市の内外海半島にある壁海トンネルをくぐり2つ目の集落が泊区で小浜湾の入口に面している小さな漁村です。海岸通りに区民の皆さんが手づくりで築いた公園があり、そのほぼ中央に約Q6メートルの土台の上に、高さ1.8メートル幅Q9メートルの自然石が据えられ「海は人をつなぐ母の如し」と銘文が刻まれています。公園には桜やムクゲ(韓国の花)が植えられており、訪れた日は、ピンクや白のムクゲの美しい花が咲き誇り、小浜湾からの風にやさしくゆられています。

この碑が建てられるまでの歴史と地区住民や多くの関係者の努力があります。

1900年(明治33年)1月12日、北西の風が荒れまくった翌日、泊村の前に漂う一隻の外国船(帆船)を発見しました。帆柱が折れ、帆も破れて無惨な状態で漂流していました。難破船の人々が手を振って叫びながら救助を求めています。村の人々は伝書船を遣ぎ、難破船に横付けに

し、舟小屋の前の浜に上陸させました。村人が総出で93人の韓国人を救助し、村中の風呂を沸かし冷え切った体を温め、飯や湯茶を出し、何軒かの家に分宿させました。

翌日、筆談(漢字)で事情を聞ききました。「船の名前は『西仁伴載』といい、約八百石程積むことができる2本マストの木造船です。露国で商売を済ませた商人や乗組員など93人を乗せて、露国海三威(ウラジオストク)を出発し、ふるさと大韓國咸鏡道明川沙浦(ハムギョンドウミンチョンサポ)に向かって帰るその日の夕方暴風に遭い、船は破損し、船内に海水が入り真冬の日本海を15、6日間漂流していました。救助されるまでの3日間は水も火も無く、餓死寸前のところをあなたの方の救助を得られ、大変嬉しいことです。」と、救助された代表者の話です。漂着した1月12日から19日迄の8日間、泊区民が一丸となって昼夜を分かたず韓国人を保護しました。

この間、村の臨濟宗の寺「海照院」に遭難救護の仮事務所を設置して、毎昼夜官吏によって事情聴取が行われた。

救助された93人全員、元気をとり戻し、1月19日午前11時、いよいよ別れの時がきた。言葉はもう必要ではなかった。お互いの心に気持ちがあふれていた。

韓国人達に別れを告げるが、その様子は実に親子の別れと同じであった。韓国人らが涙を流すと区民も共に涙を流し、袖を絞る程に泣きながら別れを告げた。



荷物・人共に泊区の舟に乗せ小浜まで送った。韓国人たちは小浜警察署で一泊し、20日午前9時、汽船凡州丸で敦賀港へ。さらに鉄道で大阪まで送り、大阪から汽船恐瀧丸で釜山港へ無事帰国しました。

平成八年(1996年)「泊の歴史を知る会」が結成され、村の歴史や民俗を調べる事業が始まった。

調査を始めてまもなく、民家の土蔵から韓国人の書いた礼状2通が発見された。「貴国の恩は山の如く海の如くであります。」との感極



「泊の歴史 韓国船遭難救護の記録」平成9年9月に出版した記録書(泊の歴史を知る会発行)



お客さんから花束を受ける二人

人に優しいふれあいの輪を広げようとする財団では10月17日から3日間、津軽三味線の長谷川一義さんと歌手の林田麻友子（日本コロムビア専属）さんを招き、県内6つの老人福祉施設を訪問して福祉演芸会を開きました。各施設の会場には、車椅子の入所者やデイサービスで訪れたお年寄り達が開幕の30分前から待つなど、3日間で延600人が楽しいひとときを過ごし、笑顔いっぱいでした。長谷川さんは、津軽三味線



津軽三味線を演奏する長谷川さん

の特色などを軽妙な津軽弁で説明しながら「津軽じょんがら節」などを演奏しました。後半は、林田さんが「潮来笠」、「ああ上野駅」などのナツメロや四季に合わせて「花」茶つみ「もみじ」焚火などの親情歌を熱唱。客席に入って、一緒に合唱したり一人ひとりと握手を交わし、ソーラン節などを合奏し、お客さんも力強く手拍子を打つなど、親しみのある林田さんと共に歌を楽しみ、フィナーレの「青い山脈」では最高潮に達していました。



客席で握手を交わし、歌う林田さん

第10回 福祉演芸会巡回訪問 津軽三味線 長谷川さん、歌手 林田さん出演

まるもので、まさしく明治33年泊の住民との別れに贈られて書かれたものである。続いて別の家の土蔵から「韓国人遺跡遺蹟歴史」という題のついた泊区長文書がみつかった。

泊区の住民と一体になって「韓国船遭難救護100周年記念事業」を企画し、記念石碑を建立するための募金活動を行った。百年目の平成12年はちょうど西暦2000年で、1月8日午前10時より日韓の参加者多数で除幕式が行われました。小さな村の大きな歴史を未来に伝える礎が手づくりの公園に姿を現した。「海は人をつなぐ母の如し」「泊の歴史を知る会」の龍田会長さんと大森さんは、「救護に当たった泊区の祖先は、今は、海の見える露地に眠り、故国に帰還した韓国人

人々も故国の土となっているが互いに海を隔てた隣国への想をめぐらしていることであろう。漂着時、大韓国は一つの国であった。悲しい歴史を経て、今は2つの国に分かれている。私たちは日韓友好と平和を願いこの活動を持続し、未来に発展させていくための努力をしなければなりません。」と話してくれました。



「風の吹いてきた村」(泊の歴史を知る会編集)

- | | |
|----------|-------------------------|
| 10/17(火) | 10時～ 眞盛苑(敦賀市) |
| | 14時～ シルバーケア日野(南越前町) |
| 10/18(水) | 10時～ 白楽荘(坂井市三国町) |
| | 14時～ たんぽぽ苑(福井市) |
| 10/19(木) | 10時～ ビハーラ大野(大野市) |
| | 14時～ 丹南ケアセンターひまわり荘(越前町) |

7/8

桑原征平氏を招き、文化講演会 家庭団樂で「思いやり」の対話を

当財団と福井県連合婦人会が共催して7月8日、福井市の福井県生活学習館において、元関西テレビアナウンサーで大阪芸術大学客員教授の桑原征平氏を招き、大人たちよ、子供に今こそ語り「思いやり」を演題に文化講演会を開きました。

桑原さんは、家庭における親子のふれあいの大切さなど身近で多彩な話題を、ユーモアとスピード感ある雄弁に約250人の会員は熱心に聴き入っていました。はじめに、テレビの多チャンネルとインターネット社会における家庭内での親子の処し方について、今まで以上に家庭の団樂を通じて互いの接し方を深める工夫が大切であることを指摘、学級崩壊についても家庭の教育や子育てにも問題がある。母



雄弁で教育、子育てを語る桑原征平さん

親のスキンシップの育児が大切であり、温もりと思いやりのある対話する教育、子育てを提言していました。

最後に、地球環境問題や世界平和についても触れ、「一人に対する思いやり、自然やものごとに対する思いやりを大人達自身実践していくことが大切である」と熱の入った講演会でした。

7/22

ジャズ界の新星 松永貴志さん 熱演

ジャズ界の新星で今人気上昇中の松永貴志さんを福井市の響のホールに迎え、7月22日に「スーパージャズライブ」(まちづくり福井株式会社、福井テレビ主催、当財団協賛)が開催されました。

松永貴志さんは現在20歳、15歳でプロデビューし、17歳でデビューアルバムを発表しており、この日もオリジナル曲「魚の涙」で始まり、彼の出身地神戸の夜景をイメージした「神戸」などを1時間30分連続でピアノ演奏しました。

彼は、新しいスタイルのジャズに魅了していました。彼のジャズは、自由で楽しい。自分の音楽はジャズではなくジャズを取り入れた音楽と言った。ほとぼる情熱のジャズピアノ演奏は、国内のジャズ愛好家のみならず海外のジャズ音楽家からも期待されています。



松永貴志さんピアノ演奏

9/9

観月の夕べ 北潟湖畔で楽しむ

「あわら北潟湖畔観月の夕べ」が9月9日あわら市の北潟湖畔サイクリングパークで盛大に開催されました。

この催しは、「和敬・和楽の心」を理念に湖に映る月をめでながら伝統芸能に触れ、文化の薫り高いイベントを通じて郷土愛を育もうと実行委員会が主催(当財団協賛)しているもので今回で第6回を迎えました。湖の水上ステージでは、湖北洞防音楽隊のオーブニング演奏に続いて市民団体等による伝統芸能やオカリナコンサートが次々と披露されました。

伝統芸能が演じられている頃、満月が姿を現わし湖畔の闇の中に浮かび上がる約5千個のほのかなろうそくの灯と湖面からの心よい風とが合いまって幻想的な

雰囲気の中で訪れた約2万6千5百人の来場者は風流を味わっていました。

また、野点茶会、ふるさと観月茶屋、明月うまいもん市も開かれ、フィナーレの湖上火火大会では、迫力ある音響と湖面に映る艶やかな色合の花火を楽しんでいました。



満月とろうそくのほのかな灯 5000個

9/22
9/24

「若越習字」創刊700号 記念書道会展

社団法人若越書道会主催(当財団協賛)の「若越習字」創刊700号記念、第36回若越書道会展が9月22日から24日まで福井県立美術館で開催されました。

会員の作品567点と一般公募の122点の力作が一同に展示されました。漢詩や現代詩などをモチーフにした行書や隷書、楷書などの書体の作品を来場者は見入っていました。9月24日には入賞者の表彰式が行われ92名が受賞、一般公募の部で知事賞に越前市の横住明良さんが、げんでんふれあい福井財団賞に福井市の上山東子さんが選ばれました。

月刊紙「若越習字」は、平成18年9月号をもって記念すべき700号を迎えられました。これまで長年本県書道文化振興に寄与されてこられた指導者の方々と、その志を受け継いでこられた会員の皆様に敬意を表しますとともに今後更なる発展を願っています。



げんでんふれあい福井財団賞受賞の上山さん

10/1

バレエと日本舞踊が
合同の舞台を展開

フクイバレエ団武生支部の「前田美留
バレエ教室」の15周年と越前市の「勝美流
友路乃会」30周年を記念しての合同発表
会「第2回和・洋の舞」(当財団協賛)が10
月1日越前市文化センターで華やかに開
かれました。バレエ教室を開いている前
田美留さんと前田さんの母で日本舞踊教
室の勝美友路さんは、息の合った舞台を
披露していました。

オープニングはバレエと日舞を振りま
げた「まつり」を、基礎で明るく元気に演じ、
前半の部は日舞、後半の部はバレエで総勢

170人が
出演しました。
日舞は「福地」、
「さくらざ
くら」、腰の
幻想など、
バレエは越
前市誕生一

周年を記念した創作バレエ「越前の風」や
「ドン・キホーテ」などの演目で、日舞と洋
舞の両方の良さや芸術性を感じ、観客は踊
りの魅力にとりつかれていました。



華麗な和・洋の舞

10/8

第16回県市町文協選抜芸能祭
歌や踊り舞台多彩

第16回福井県市町文協選抜芸能祭(当
財団協賛)が10月8日越前市市民文化セ
ンターで開催されました。昨年本県で開
かれた「第20回国民文化祭」(ふく「2000」)
の成果を継承する「ふくい県民総合文化
祭」の一環として開かれ、16市町の文協を
代表する団体が日頃研鑽された成果を発
表するもので、美浜町文化協会(「大正舞」)
演奏で始まり、バレエ、民謡、民舞、吟詠、
合唱など幅広い演目で2500人の出演者
が、熱演しました。

特に、開催地の越前市市民文化協議会か
ら、来年の継体天皇即位千五百年を記念
して、所属する9団体が団結して、継体
天皇が即位するまでを描いた構成演舞劇
「出発の秋」が上演されました。第一景「母

のふるさとへ」か
ら第四景
「花嫁」の
四部構成
でバレエ、
詩吟、日
本舞踊、
演劇、太
鼓などの
それぞれ
の持ち味

を活かした演技の合作で、衣裳も工夫さ
れ、わかりやすいナレーションで華やか
に演じられ約800人の観客を魅了させ
フィナーレを飾りました。



演舞劇「母のふるさとへ」

10/14

海、山、音楽 福井ロックフェスティバル
熱く福井発ロック

県内外で活動中のロックバンドによる「海・
山・音楽 福井ロックフェスティバル200
6」(福井新聞社、福井エフエム放送主催、
当財団協賛)が10月14日夜福井市の廣のホ
ールで開催されました。

今回は、メジャーで活躍している「ザ・
ルーズドッグス」をはじめ、シンガーソ
ンライター「ナオリユウ」さんと「横田
はるな」さん、「Nancy Whiskey」、「Stinky
Dog」(いずれも本県出身の個性的な5
組のアーティスト)が出演。会場の1階の
席には熱狂的なロックファンが集まり、
2・3階の客席を含め約2800人の観客
を前に熱いステージを盛り上げました。
四人バンドの「Stinky Dog」が登場し幕
を開けるとカクテル光線のライトをうけ
てステージのロックンロールの演奏に合

せて1階ではファンが体を動かしリス
ミカルに踊り出すなど会場いっぱい
ボルテージが上りました。

各々のアーティストの力強い歌声と演
奏、軽妙なトークなどのパフォーマンス
に若いカッ
ブルや友達
連れなどの
ファンが体
を動かした
り手をたた
いたり声援
を送り、出
演者と観客
が一体とな
った演奏会
でした。



ザ・ルーズドッグス熱演

10/17

第26回県・市町文協選抜美術展
金津創作の森で

第26回福井県市町文協選抜美術展(当
財団協賛)が10月17日、18日の両日、あわ
ら市の金津創作の森で開催されました。
県内16市町文協から選ばれた絵画、書
道、写真、工芸作品約380点が展示され
ました。

絵画は、風景や人、静物を対象とした現
代画など88点、書道では、漢詩や前衛書な
ど84点、写真は、四季の自然、風景などの
作品42点、工芸部門では、衝面や鍍造、装
飾工芸など多彩な力作を出品。
郷土色豊かな作品が並びいすれも地域に

おける美術
活動で磨き
上げた感性
豊かな作品に
訪れた人達
はじっくり
と鑑賞し、
静寂な「創
作の森」の
秋のひとと
きを楽しん
でいました。



感性豊かな作品展示

本誌第24号のアンケートに総数35通のご回答をいただきありがとうございました。その結果を下表のとおりまとめました。今後も、皆様のご意見をうけたまわり本誌の充実に努めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。



第24号で良かった記事は

- 第7回げんでんふるさと文化賞 芸術新人賞インタビュー 5名
- 第25回近畿高等学校総合文化祭 福井大会 11名
- ふるさと福井人物シリーズ 「若狭の杉田玄白(上)」 23名
- 第8回ふるさと大賞写真コンテスト 入賞作品展 10名
- シリーズ15 福井の文学碑 「宇野重吉の演劇碑」 15名
- 伝統行事シリーズ 「栗田部の蓬葉記」 12名
- 敦賀市博物館誌上ギャラリー/18 「花卉図」板谷桂章筆 8名
- 全国YOSAKOI衣デザインコンペティション 戸田颯江浪曲入門コンサート特別協賛 8名
- 情報ファイル 10名
- その他 1名

本誌への主なご意見

- 県内出身の人物シリーズは、福井県をPRするためにも良い企画です。
- 「花卉図」はなんともいえない生花に感動し何回見てもあきがきません。
- 福井ブランドをアピールするためにも続けて刊行してほしい。
- 県内の文化・ボランティア活動を募集し、紹介してほしい。
- ふるさとの歴史的なものが余り知られていないので、これからもどんどん記事にしてほしい。
- 各シリーズは単行本にして販売し、又公共機関に寄贈するとより効果が上がると思う。
- 短歌のコーナーがあると良い。
- 地域の情報を楽しみながら入手でき、便利に利用している。

平成19年度財団助成の団体を募集 申請期限4月30日(月)

財団では、文化団体等の事業活動を支援するため「財団助成事業取扱規程」に基づいて平成19年度に助成を受けたい団体を募集しています。

対象団体の要件

- 1、福井県内に活動の本拠を置く団体
- 2、構成員(会員)が原則として20名以上の団体
- 3、平成19年4月現在で、原則として設立2年を経過している団体
- 4、営利を目的とせず、明確な会計経理を実施、報告できる団体
- 5、特定の政治団体、宗教団体、企業に所属していない団体

応募の方法

- 財団所定の「助成事業応募要領」により「推薦団体」の推薦を受け、助成事業申請書を4月30日(月)まで(申請事業の実施が4・5月の場合は3月31日まで)に当財団に提出してください。
- 申請書のほか、事業計画、予算書など添付していただく書類等がありますので、詳しいことは「げんでんふれあい福井財団」にお問合せ下さい。

財団イベント INFORMATION

日英小学生絵画展	敦賀市内の5小学校とイギリス・セラフィールド地区の4小学校の児童絵画を展示	12/2(土)～12/17日	敦賀原子力館	(敦賀市明神町)
		12/19(火)～12/26(水)	げんでんふれあいギャラリー	(敦賀市本町)
バイオリン&ハンドベル 天使のハーモニー	ソノス・ハンドベル・アンサンブル	12/16(土)	県立音楽堂	福井新聞主催 財団協賛 入場料3,000円
第9回ふるさと大賞 写真コンテスト入賞作品展	ふるさと大賞および入賞作品69点を展示	平成19年 1/30(火)～2/11日	げんでんふれあいギャラリー	(敦賀市本町)
		平成19年 2/16(金)～2/21(水)	ショッピングセンター「ベル」	(福井市花堂)
文化講演会	講師 吉川精一氏 (歌手、元NHKアナウンサー)	平成19年 2/11日	小浜市文化会館	小浜市連合婦人会と財団共催
平成18年度 福井県新人演奏会	公開オーディション	平成19年 2/25日	県立音楽堂	福井県文化振興事業団主催 財団協賛
	新人演奏会	平成19年 3/25日		
フラメンコの世界	エル・トレオ舞踊団	平成19年 2/28(水)	県立音楽堂	福井県文化振興事業団主催 財団協賛 入場料5,000円

